

分科会	中3公民	郡市名	岡崎
提案者	岡崎市立東海中学校		太田 信

研究題目

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業

～「中学3年地方自治と私たち－アウトレット誘致は幸せにつながるのか－」の実践を通して～

1 はじめに

岡崎市の社会科部は、研究テーマ「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」を受け、28年度から授業実践を行ってきた。過年度の研究を通して得られた成果と課題は以下の通りである。

<実践単元> 28年度 2年生 地理的分野「中部地方・伝統産業は存続していくことができるのか」
29年度 3年生 公民的分野「地方自治と私たち－これからの伊賀川－」
30年度 3年生 公民的分野「地方自治と私たち－徹底討論！額田のバス路線－」

<成果>

- ・28年度の実践では、学級の仲間とのかかわり合いの場が、疑問を抱き追究の視点を明らかにする場と、自らの考えを深め新たな視点へ目を向ける場として重要であることが実証できた。
- ・29年度の実践では、伊賀川の防災について、子どもの疑問から問いを得ることで追究意欲が増し、主体的な追究活動と深い社会認識に至ることができた。
- ・30年度の実践では、衰退が予想される子どもにとって身近なバス路線を教材化したことで、子どもたちは切実感を抱き、地方自治への参画による持続可能なバス路線のあり方を話し合うことができた。

<課題>

- ・28年度の実践では、教師側の誘導が強くなってしまった場面があった。主体的な社会参画への意欲を高めるために、思考の連続性を大切に単元構成の在り方を再考する必要がある。
- ・29年度の実践では、立場による多様な子どもの問いに対して、構造的な板書や、意見を深める問い返しが課題であり、多面的・多角的な社会事象の捉えが明確にはできなかった。
- ・30年度の実践では、ゲストティーチャー等との仲間との出会いが、真に子どもの「出合いたい・学びたい」という思いから実現をしたものであるかについて再考する必要がある。

これを受けて、本研究では、「仲間とのかかわり」を授業の核に据えて、子どもの切実な問題意識から課題を追究する。その中で、仲間との出会いに必然性を感じながら、よりよい社会づくりに向けて、現代から未来における参画をめざす子どもを育てることをめざし、研究を進めることとした。

2 研究主題のとらえ

「仲間とかかわりながら」

「仲間」とは、共に学び合う学級の子どもたちだけでなく、学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを意味する。社会を構成するのは人である。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間とかかわり合うことが礎となるべきであると考ええる。

「よりよい社会づくり」

「よりよい社会」とは、そこにかかわる人にとって幸せを感じられる社会（持続可能な社会）である。問題の解決が見えた先にあるのが「よりよい社会」であると考ええる。

「参画をめざす」

「よりよい社会づくり」へ「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とのかかわりに「思いをはせる」姿も参画と考える。

3 本研究実践を通してめざす子ども像は以下のとおりである。

- ① 学区の抱える課題に対して切実感を抱き、その問題解決のための追究活動において、学区のまちづくりに関わる仲間や学校の仲間と積極的にかかわり合い、主体的に学ぼうとする生徒
- ② 地域のまちづくりに関する情報の精査に見通しをもちつつ、自分の考えを再構築していく中で、多面的・多角的に今後のまちづくりの進むべき方向性を考え、学区の地方自治のあり方についての価値認識を深めることができる生徒
- ③ 仲間とのかかわり合いを通して、よりよいまちづくりの参画への意欲を高める生徒

4 研究の仮説と手だて

<p>【仮説Ⅰ】 生徒にとって身近で、生徒がかかわる必要性を感じる社会事象を教材として取り上げれば、生徒は追究意欲を高め、主体的に学びに取り組み、責任ある持続的な社会参画をめざす姿が見られるであろう。</p> <p>手だて① 東海地区の再開発という地域教材を取り上げる…自分たちの住む街の課題を自分事としてとらえ、切実感をもって追究活動を行うことができるようにする。</p> <p>手だて② 課題にかかわる人との出会い…東海地区のまちづくりはそれぞれ違った立場からかかわっている人たちがいる。まちづくりの主体となる地域住民・行政・まちづくりに対して不安を抱える人など、それぞれの立場の方の強い願いと、中学生に期待する思いに触れることで、よりよい社会づくりへの参画に意欲を高め、参画に対する見通しを持つことができるようにする。</p>
<p>【仮説Ⅱ】 社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的な社会認識を獲得することで、主権者としてよりよい社会づくりへの具体的な参画を模索し、地方自治のあるべき姿を考えることができるであろう。</p> <p>手だて③ 子どもの問いが連続する単元構成を考える…子どもの疑問や、思考の変容に合わせて学習を見通す時間やゲストチャーとの出会いを設けることで、学ぶ必然性を感じながら課題に携わる仲間と出会い、社会的な見方・考え方を働かせられるようにする。</p> <p>手だて④ 見方・考え方を働かせる教師の出の工夫…子ども同士のかかわり合いの中で子どもに社会的な見方・考え方からの追究の時間につながる教師の出を行い、思考を揺さぶることで、実社会の多様性に気づき、地方自治がどうあるべきかを主権者としての自覚の下で考えることができるようにする。</p>

5 教材について

地方自治とは、地域住民の願いと主体的な努力によって実現するものである。そして、その願いや努力は持続可能な社会を創ることを目指していることが大切である。本学区はアウトレットモールの誘致と、それに関わる地域の再開発の計画が市から発表されている。とりわけアウトレットモールの誘致に関しては、生徒の関心も非常に高い。このアウトレットモールの誘致や地域の再開発はもともと、地域が抱える人口減や少子高齢化といった深刻な課題を解決するために、東海学区の住民からの粘り強い要望をもとに企業や市が動き出した計画である。現段階での計画は未決定の部分も多く、その実現に向けては地域住民の願いを行政に伝える話し合いを今後も継続し、山積する課題を解決していくことが不可欠である。アウトレットモール誘致やそれに伴う地域の再開発にむけて発足された「まちづくり協議会」の方と行政の共通の願いは、「次世代のために持続可能なまちづくりをしたい。その実現のため若者の意見を聞きたい。」というものである。そのため、次世代の東海学区の主権者となる生徒の考えが求められてもいる。生徒の願いが具現化される可能性が十分にあるアウトレットモールの誘致計画を教材化することで、地方自治の本質を理解し、持続可能な発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育みたいと考え、本研究実践に取り組むこととした。

6 単元目標

- (1) アウトレットモールの誘致に関する調査活動を手掛かりにして、地域社会におけるよりよいまちづくりは住民の主体的な努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであることを理解できる。(知識・技能)
- (2) アウトレットモールの誘致に関わる、地域住民の願いや行政の働きをもとにして、地域社会の一員として自らが果たすべき役割にはどのようなことがあるかについて考え、主権者として判断したことを適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 東海学区のこれからの危機感を抱き、学区の再開発について地域住民の一人として関心を高める中で、アウトレットモールの誘致に関連する現状と市や地域住民の願いについて、意欲的に追究することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

7 単元計画

次	「学習課題」 ○学習内容	主に働かせたい 社会的な見方・考え方
1	「全員が、資料から東海学区が抱える課題を読み取り、その解決策を一つ以上挙げる ことができる」 ○学区の課題を把握し、解決策としてアウトレットモール誘致計画と出合う。 手だて①	「現状にはどのような問題点があるのだろうか」 「課題解決に必要な要素にはどのようなものがあるのだろうか」 (現代社会の見方・考え方)
2	「全員が、アウトレットモールの誘致によるメリットとデメリットを予想することができる」 ○アウトレットモール誘致がもたらす学区への変化を予想し、話し合う。 手だて④	「アウトレット誘致はどのような生活の変化をもたらすのだろうか」 (現代社会の見方・考え方)
単元を貫く学習課題 アウトレットモールの誘致は、学区民の幸せにつながるのだろうか 手だて①④		
3	「全員が、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつながるかを調べるための、調査計画を立てることができる」 ○追究の方法に見通しを持つ。 ・市役所、地域住民の話を聞きたい。(⇒第5次～7次へ) 手だて③ ・資料を使って調べたい。(⇒第4次へ) 手だて③	「誰に聞けばよいのか。どんな資料を調べればよいのか」 (現代社会の見方・考え方)
4	「全員が、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつながるのかについて、資料から読み取ったことをもとに、自分の考えをまとめることができる」 手だて③ ○資料から過去の他地区の様子を把握する。市の方針や計画に関する基本的な知識を得る。	「他地区の過去の成功例失敗例の要素は何か」 (地理的な見方・考え方) 「地方自治と政治はどう関わっているか」 (現代社会の見方・考え方)
5	「全員が、市役所の方の話を聞いて、アウトレットモールの誘致計画の現段階での進み具合や予想されるメリット、現状の課題を把握し、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつながるのかについて自分の考えをまとめることができる」 ○市役所都市計画課から計画の経緯や進捗状況を聞く。 手だて②③ 今後の市の方針や、中学生に期待することを聞く。 手だて②③	「地方自治における行政の役割とは何か」 「市の計画は持続可能なまちづくりにつながる計画になっているか」 (現代社会の見方・考え方)
6	「全員が、まちづくり協議会の方の話を聞き、アウトレットモールを誘致することになった経緯やそれに伴う地域の再開発の計画と地域住民の方の願いを知り、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつながるのかについて自分の考えをまとめることができる」 ○再開発に向けた地域住民(まちづくり協議会)の強い願いに触れる。 手だて②③ ・計画に不安を抱えている人の話も聞いてみたい。(⇒第7次へ) 手だて③	「地方自治における地域住民の役割とは何か」 「本当に推進してよい計画なのだろうか」 (現代社会の見方・考え方)
7	「全員が、天野さんのお話を聞いて、アウトレットモールの誘致に対する学区民の不安の声も踏まえて、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつながるのかについて自分の考えをまとめることができる」 ○計画に対する切実な不安の声に触れる。 手だて②③	「より多くの人が納得をするまちづくりにつなげるためにはどうすればよいか」 (現代社会の見方・考え方)
8	「全員が、これまでの資料や事実を整理し、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつながるのかについて根拠を明確にして改めて自分の考えをまとめることができる」 ○資料を精査し、自分の考えを再構築する。 手だて③ 仲間とのかかわりの必要性に気付く。(⇒第9次へ) 手だて③	「他の人はどのような意見を持っているのだろうか」 (現代社会の見方・考え方)
9	「全員が、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつながるのかについて、根拠となる資料や事実をもとにみんなで話し合い、自分とは異なる立場や見方を理解したうえで自分の考えをまとめることができる」 ○これまでの調査活動をもとに根拠を明確にして話し合う。 手だて③ ・よりよいまちづくりのために自らがすべきことについて考える視点をもつ。 手だて④	「どうすれば学区民の幸せにつながる計画にできるのだろうか」 (現代社会の見方・考え方)
10	「全員が、これまでの調査活動や話し合いをもとに、アウトレットモールの誘致が学区民の幸せにつなげるために自分がすべきことは何か考えることができる」 ○よりよいまちづくりに向けてすべきことを行政、地域住民、わたしたち(中学生)の三つの立場ごとに分類する。 手だて③④ ・わたしたちのすべきことについて具体的に行動にしたい。(⇒第11次へ) 手だて③	「行政・住民・自分、それぞれの立場で地方自治とどう関わっていくべきか」 (現代社会の見方・考え方)
11	「全員が、アウトレットモールの誘致とそれに伴うまちづくりを学区民の幸せにつなげるために、わたしたちがまちづくり協議会の方に伝えるべき内容を考え、話し合いによって学級としての意見をまとめることができる」 ○まちづくり協議会への提言の内容を話し合う。 手だて③	「地方自治にかかわる一員として自らのすべきこととはなにか」 (現代社会の見方・考え方)
備考	本校東海中学校は『学び合い』(二重括弧の学び合い)の理念に基づく授業研究を進めている。そのため、学習課題は『学び合い』の特徴の一つである「全員が〇〇できる」という形になる。	

8 抽出生徒

- A… 学習に対する態度は非常にまじめでこつこつと取り組むことができる。中学校生活のなかで、自分の考えを他者に向けて発信しようとする態度が養われてきた。そこで、Aのまじめで考えを発信しようとする良さを生かし、切実感をもって、多面的・多角的な視点をもとに身近な学区の地方自治について考える学習の場を設定すれば、よりよい社会づくりに向けて積極的に参画していこうというAの態度を養うことができると考えた。さらに、Aの考えが他の生徒に発信されることで、学級全体の活発なかかわりと、学区の地方自治への参画について真剣に考える姿勢の醸成が期待できると考えた。
- B… 日々の授業では、問題を効率的に解く手順を得るために、積極的に他者とかがわろうとすることができる。しかしながら、学習の必要性を感じて自ら進んで追究したり、考えをはっきりと伝えたりする姿はあまり見られない。そこで、課題解決のために仲間とかがわることのできるBの良さを生かし、課題解決と自らの考えを他者に伝える必要性を感じ実感する学習の場を設定すれば、Bのよりよい社会づくりに向けて自らの参画の方法を考え、実践につなげようとする態度を養うことができると考えた。

9 授業実践

○第1次【学区の課題を読み取り、解決策を考える】(手だて①)

第1時ではまず、岡崎市の8つの地区ごとに示された「人口推移グラフ」「5歳階級別人口ピラミッド」「年齢別人口と構成比(対前年比を含む)」を資料として提示した。このグラフから、東海学区が抱える少子高齢化と人口減という課題を読み取れることをねらった。生徒は、資料から市内の他の地区と比べて、自分たちの住む東海学区の少子高齢化と人口減の進行が深刻であると気づき、「このままじゃ、この学区まずい…」と口にした。そこで教師はその気づきを全体で共有し、「この二つの課題を解決できるような策はないかな」と問いかけた。すると、アウトレットモールの誘致を挙げる生徒が複数いたため、アウトレットモール完成予想図を提示した。生徒は初めて目にする完成予想図に感嘆の声を挙げつつ、「そんなにすごいものができるのか」「これが完成したら学区が激変する」とつぶやいた。この雰囲気を利用して「本当にアウトレットができることで学区の課題は解決するのか」と問いかけた。すると、「これだけ大きなものができるれば、この学区はかなり都会になる」という声があった。そこで次時以降生徒は、アウトレット誘致について調べることにした。

【資料1】第1時の感想

【生徒A】

みんなに長生きしてほしいけど、新たな世代も増えてほしい。アウトレットができて雇用が増えるだけでは、別のまちから働きに来るだけになってしまうのではないか。この町に住んでもらうような工夫が今後必要になると思う。

【生徒B】

このままでは人口が減りつづけてしまう。そうならないために、アウトレットによって雇用の場を確保するだけでなく、子どもを育てやすい環境をつくることが課題の解決には欠かせないと思う。アウトレットがそれにつながるのか調べたい。

生徒の感想は【資料1】のようであった。生徒A・Bともに、学区の抱える課題解決に必要な「雇用」「子育て」「移住」などの要素についての見方・考え方を働かせつつ、予想を立て、自分の住む学区について追究意欲をもっていることがわかる。

○第2次【アウトレット誘致のメリットとデメリットを予想する】(手だて④)

第2時は前時の流れを汲んで、アウトレット誘致のメリットとデメリットを予想した。個人追究と全体の話し合いでは、メリット・デメリットともに多くの予想が立てられた。【資料2】はその様子の一部である。C28でまず「少子高齢化対策になる」と語り、その後メリットが人口増・経済発展・利便性の向上などの点で挙げられた。すると、C35では逆にデメリットとして、交通渋滞・自然破壊・新規住民の未定着などが挙げられた。メリット・デメリットのどちらも挙げられたことでアウトレットモールの誘致が学区民にとって「いい」のか「良くない」

【資料2】第2時 授業記録

- T8 あなたは今アウトレット誘致計画についてどう思いますか。
- C28 自分は賛成。人口が増え、若者も増える。少子高齢化対策になる。
- C29 経済が発展することや知名度があがることで、電車の本数が増えるなどの効果も期待できると思う。
(中略)
- C35 だけど、この学区に住む人にとってよくない。国道1号線は確実に渋滞するし、自然も壊される。アウトレットに人が来ても、学区に住むとは限らないし、今住んでいる人にとってもよくない。アウトレットは少子高齢化や人口減の解決にはならない。
- T9 「いい」「良くない」という言葉が出てきているけれど、「いい」とはどういうこと?
- C36 学区の人の幸せになるかどうかということ。
- T10 幸せになるかどうか…みんなはどう思う?では、次の時間からはそこについて考えて行こうか。

のかの判断ができないと感じた生徒に T9 「いいとはどういうこと」と切り返したことで、生徒は C36 「学区の人の幸せになるかどうかということ」という新たな追究の視点を見出した。学級内で共有することができたので本単元を貫く学習課題「アウトレットの誘致は学区民の幸せにつながるのだろうか」を設定した。また思考の変容を分かりやすくするために毎時間価値判断をし、A(つながる)～E(つながらない)で表すことにした。

【資料3】は生徒の授業の感想である。「学区の人の立場から考えると」(生徒A)「幸せになる人もいるし、ならない人もいる」(生徒B)から、立場による多様な視点で考える必要性に気付き始めている生徒の姿をとらえることができる。

○第3次【調査計画を立てる】(手だて③④)

前時の感想を読むと「幸せ」の認識にばらつきがあったため、第3時の初めに、単元を貫く学習課題の中の「幸せ」について最低限の定義を考えることにした。前時の感想にあった、「今のままでは持続可能な社会は実現できない」という記述を取り上げ、持続可能な社会とは「将来の世代の幸福と現在の世代の幸福とが両立できる社会」と確認した。その上で、東海学区が持続可能な地域であることを願うかと教師が問うと、全員が「願う」と答えた。そこで、「将来の世代の幸福と現在の世代の幸福とが両立できる」ということがこの単元で考える幸せであり、そのためには、少子高齢化と人口減という課題の解決は必要であるということを確認した。この定義をふまえ、生徒はどんな追究をするべきか計画を立て始めた。【資料4】は生徒の調査計画の一部である。「自分で調べないと」と意欲を高める様子が読み取れる。生徒が挙げたような調査計画に沿って、次時以降の追究を進めていくこととなった。

○第4次【資料をもとに考えをまとめる】(手だて③)

第4時ではまず、資料をもとに調査活動を行った。使用した資料は【資料5】の通りである。

【資料6】は第4時の生徒の感想である。

【資料5】調査活動の資料 ・岡崎市長HP ・岡崎市平成31年度予算重点事項 ・岡崎市都市計画マスタープラン

【資料6】第4時の感想


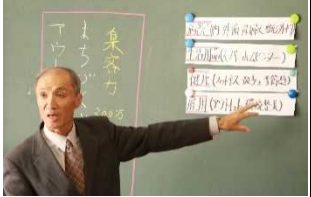

生徒A 価値判断C どちらとも言えない | 他地域の様子を見ると住民から好印象の地域もあれば、住民が反対または無関心の地域もある。住民が無関心や反対をした地域は、住民への説明や交通整備が十分ではなかった。丁寧に市が計画を立て、住民の許可と期待と得てから建設をはじめれば学区民の幸せにつながるのではないだろうか。
生徒B 価値判断D どちらかといえばつながらない | 東海学区の人は、アウトレット計画についてほとんど何も知らない。このままでは、失敗した他の地域ようになってしまう。また、かなりのお金を使うことがわかった。地域のためにもっと有効なお金の使い道があるのではないかと。

生徒Aは、「住民が無関心や反対をした地域は、住民への説明や交通整備が十分ではなかった」と、他地区の様子を調べたことで、地理的な見方・考え方を働かせて、地域住民への計画の周知や具体的な課題解決が、アウトレット誘致を学区民の幸せにつなげるための要素であるという考えをもつことができた。また、生徒Bは現代社会の見方・考え方を働かせて、「地域のためにもっと有効なお金の使い道があるのではないかと」、地方自治を市の予算の観点から考えることができた。

○第5次【聞き取り調査をする】(手だて②③)

第5時から第7時は、前時の感想に住民と市の観点が多数出てきたことから聞き取り調査を行った。岡崎市役所都市計画課、まちづくり協議会(地域住民)アウトレット建設予定地近くにお住まいのCさん、と3つの立場の方にご協力いただき、それぞれ一時間ずつお話をお伺いした。次ページ【資料7】は聞

き取り調査の様子と生徒の感想である。

【資料7】聞き取りの様子	
第5時 市役所都市計画課のお話を概要 <ul style="list-style-type: none"> ・アウトレット誘致計画は地域住民の強い願いがその発端となっている。 ・市では住民の願いを実現するため、綿密に計画を立てて行政上の手続きも行っている。 ・明確なビジョンをもとに計画を進める責任がある。 ・中学生にも関心を持ってもらいたいし、どんどん意見を伝えてほしい。 	
第5時の感想 	
生徒A 価値判断B どちらかと言えばつながる 市はじっくりと計画を立て、いろいろな問題の解決に向けて対策を立ててくれている、しかし、 <u>学区の人の意見を聞かなければ判断はできない。</u>	生徒B 価値判断C どちらとも言えない 交通量の増加などに備えて対策を取ってくれていることは分かった。でも、 <u>どのような計画で進められているかを地域住民の方にしっかりと伝えなければいけない。</u>
第6時 まちづくり協議会のお話の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・学区のために10年以上かけて話し合いを重ね、やっと実現に向けて動き出している。 ・地域住民とも話し合い、意見や要望を聞きながら慎重に計画を進めている。 ・アウトレット誘致を「核」として、地域住民の生活を豊かにすることが最大の狙い。 (病院や企業の誘致・雇用の拡大・子育てしやすいまちづくりなど) ・20年後、30年後のための計画であり、その頃このまちを担うのは君たち中学生だ。 ・中学生の意見を聞きたい。 	
第6時の感想 	
生徒A 価値判断A どちらかと言えばつながる まちづくり協議会の人たちが何年も前から市に訴えてきてくれた計画であり、 <u>住みやすいまちになるための利点がたくさんあるとわかった。こんなに考えてくれているのだから、私も積極的に意見を言っていきたい。</u>	生徒B 価値判断B どちらかと言えばつながる まちづくり協議会だけでなく、 <u>学区のみんなで協力して計画を進めていくことが重要。</u> そうすれば未来にも続く明るい住みやすいまちができるかもしれない。でも、『全員が幸せ』の実現は難しい。
第7時 Cさんのお話の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・計画の不安を抱える卒業生の手紙の紹介。(環境破壊・通学路の安全確保への不安) ・自然破壊・治安の悪化・交通問題など大きな不安が山積みである。 ・その不安が解消される計画だとは思わない。学区の良さ、素敵な風景を壊さないでほしい。 ・30年後、この地域を担っていくあなたたちにこの問題を真剣に考えてほしい。 	
第7時の感想 	
生徒A 価値判断C どちらとも言えない アウトレット計画は幸せにつながるとばかり思っていた。でも、 <u>Cさんの不安は多種多様だった。この問題を解決してから計画を進めなくてはならない。</u>	生徒B 価値判断D どちらかと言えばつながらない 私も学区の自然は大好きだけれど、 <u>Cさんの考えだけでは、この学区は持続可能にならない。でも、Cさんの意見は無視できない。幸せって、なんだろう。</u>

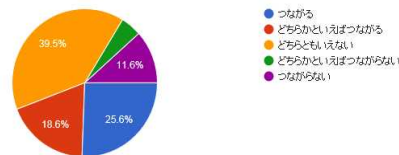
第5時から第7時にかけて、生徒Aは価値判断をB→B→C、生徒BはC→B→Dと変化させており、生徒の考えは揺れ動いている。これは、課題にかかわるそれぞれの立場の人との出会いが、課題について様々な視点を与えたためだと考える。生徒Aは「私も積極的に意見を言っていきたい」(第6時)とまちづくりへの参画に対する意欲を持つことができた。また、「住みやすいまちになるための利点がたくさんある」とアウトレット誘致に期待できる地域住民への好影響を理解しつつも、「Cさんの不安は多種多様」と計画に対する不安の声も把握した。また、生徒Bは「『全員が幸せ』の実現は難しい」(第6時)「幸せって、なんだろう」(第7時)と実社会の多様性に気づき、地方自治の難しさに直面していることが分かる。生徒A・Bはともにまちづくりを住民主体で行っていくことの重要性を感じている。それは、「学区の人の意見を聞かなければ判断できない」(生徒A・第5時)「学区のみんなで協力して計画をすすめていくことが重要」(生徒B・第6時)という感想から分かる。

生徒Bは授業後に「地域に住むもっと多くの人意見を聞きたい」と訴え、生徒Aらとともに「東中まちづくり協議会」を発足した。この「東中まちづくり協議会」が中心となって地域住民へのアンケートを実施した。

○第6次【根拠を明確にして自分の考えをまとめる】(手だて③)

第8時は個人追究の時間とした。これまでの追究成果を

5 アウトレットの誘致は、学区民の幸せにつながるか



地域住民へのアンケート結果の一部

【資料8】第8時の感想

生徒A 価値判断B どちらかと言えばつながる | Cさんのような方もまちづくり協議会の方も何年もかけて計画してくれている。それが、それぞれの課題の解決策を考えていくことが必要だし、今はそ

つながる』というか『幸せにつながってほしい』と思う。
生徒B 価値判断C どちらとも言えない | アンケートの結果、言う大人は約10%と、思っていたよりも少なかった。大人たちはアウ

期待しているし、それは計画を進めてきた人たちの狙いと一致している。ただ、Cさんの思いも大切にしたい。
整理し、考えを主張する根拠にふさわしい資料を選択する活動に取り組んだ。生徒が考えの根拠とする資料には、これまでの授業で追究した資料に加えて、地域住民へのアンケート結果も取り入れた。前時までに実社会の多様性に気づいている生徒たちに、立ち止まってじっくりと個の考えを整理する時間を確保することで、仲間と意見を交流したいというさらなる追究意欲が生まれると考えた。【資料8】は生徒の感想である。

生徒Aの下線部からは、自分の住む学区に対する切実な思いから、まちづくりを見届けていこうとする姿勢をとらえることができる。また、生徒Bは下線部のようにアンケートを根拠として、計画の目的や地域住民の願いに矛盾がないことを認識しつつも、少数派であるCさんの意見も尊重したいと考えている。

第8時の他の生徒の感想からは、「たくさんの意見を聞くことで、自分の意見を批判的に見直したい」「自分とは違う意見を持った人と意見交換し、いろんな面からアウトレットについて考えたい」といったものが多く見られたため、次時では、学級全体で単元を貫く学習課題「アウトレットモールの誘致は、学区民の幸せにつながるのだろうか」について、話し合う場を設けることにした。

○第7次【学級で話し合う】(手だて③④)

この話し合いは、【資料9】のように「幸せにもつながらない」という意見から始まった。生徒Aは話し合いの司会的役割となり、教師が配付した座席表(前時の生徒意見を記載)を見ながら、C7やC17のように多くの生徒の意見を引き出した。

【資料9】第9時の授業記録

- C4 「アウトレットに集客力を期待していると市の人は言っていた。しかし、実際に人が来なかったら建設費は無駄になるし、幸せにもつながらない」 (中略)
- C7 「アウトレットの集客力は認めるが、住宅地が出来なければ人口減という課題は解決されない」 (中略)
- C17 「アウトレットを“核”として、車がなくても生活できるまちにする必要がある」 (中略)
- C24 「私たちが大人になったときに少子高齢化も人口減もさらに進んでいるはず。だから、これからの未来の幸せのためにも今アウトレットを誘致することが必要」 (中略)
- C27 「学区の抱える課題を解決するためには、アウトレット以外の何かを誘致したり、何も建てなかったりしたほうがよいのではないか」
- C28 「何も建てないはありえない。そうしたら今の幸せは維持できても未来の幸せにはつながらない」 (中略)
- C30 「アウトレット誘致計画はもう10年以上考えられ、進みつつある。今から他の計画に変えていたらさらに時間がかかる。その間にも少子高齢化も人口減も進んでいく。だから計画の考え直しは現実的ではない」 (中略)
- T2 「C30の意見があったね。計画の様子を知っているみんなにとっては、今からアウトレット計画が別のものになるというのは現実的だと思う？」
- C36 「そういう変更はないと思う」 (中略)
- T4 「やはりアウトレット計画自体が変更になることはなさそうだね。でも、これまでにみんなの意見であげられたような不安材料もいっぱいあるのも事実のようだ・・・じゃあ、どうするの？」
- C37 「今考えられているデメリットへの解決策は、税を使ったり市役所が動いたりとしているものばかりなので、市民と行政が話し合いを重ねていき、市民の意見を聞いた解決策を考えていくことが大切だと思う」
- 生徒A 『「幸せにもつながらない」と考えている人の意見の多くは学区の人の気持ちを考えている。大切なのは、幸せにつながるかつながらないかではなく、幸せにつなげるためにどうするかだと思う』

これまでの学習を通して、生徒は多数決で決めようとしないう姿勢が身に付き、未来を生きる世代としての責任感を高めつつあると教師はとらえていた。そのため、その責任感を自覚した行動に移すことをねらって、T4での「じゃあ、どうするの？」という教師の出を行った。これにより、生徒Aの下線部の言葉のように、生徒は、どのようにまちづくりに関わっていくべきかを考えるようになった。

【資料10】第9時の感想

生徒A | 自分がメリットだと思っていたことも他の人からはデメリットに映っていた。一つのことで多面的に見ることが大切だとわかった。自分たちに出来ることをもっと考えたい。何かできることがあるはずだ。

生徒B | 私たちも含めて、地域の人も話し合いに参加し、共に解決策を考えたり、意見を伝えたりしなければいけない。「幸せ」でも、だれの幸せなのかで意見が変わってくるから、多くの立場から意見を伝えることで未来が変わってくる。これからもこの学区の変化を見守り続けたい。

生徒Aは、「何かできることがあるはずだ」とよりよい社会づくりへの参画の意欲を高め、まちづくりにかかわる視点として「一つのことで多面的に見ること」が重要であるという考えをもった。生徒Bは「多くの立場から意見を伝えることで未来が変わってくる」と主権者としての自覚のもとで、参画に対する見通しを持つことができた。また、「見守り続けたい」からは、今後もまちづくりに参画していこうとする生徒Bの姿を捉えることができる。

○第8次【誘致を学区民の幸せにつなげるために自分がすべきことを考える】(手だて③④)

前時の話し合いを受けて第10時では「学区民の幸せにつなげるためにすべきこと」を「市」「地域住民」「中学生」の立場で整理をした。この活動を通して、生徒は改めて地方自治に関わるそれぞれの立場の役割を再認識した。地域住民の願いを政治によって実現するという地方自治の仕組みを理解した生徒たちは、中学生としての意見をまちづくり協議会に伝え、まちづくり協議会にはその思いをもとに市との話し合いを進めてもらおうと考えた。

そこで第11時では、まちづくり協議会に伝えるべきことを考えた。話し合いのなかで生徒Bは「今出ている意見は、『若い人からの意見がほしい』という市やまちづくり協議会の方の意見に答えられていない」と発言した。生徒たちは、中学生だから見える視点にこだわって考えをまとめた。最終的には、東中まちづくり協議会を中心に意見書(【資料11】)をまとめ、学級全体の承認を得た後にまちづくり協議会に意見書を提出して単元を終えた。

【資料11】まちづくり協議会に提出した意見書(要約)

- ① 学区の安全を確保してほしい
(通学路の安全・治安の維持など)
- ② できる限り情報を公開し、学区の人の意見を反映してほしい
(説明会の実施や意見交換の場の確保など)
- ③ 地域の人が暮らしやすいまちにしてほしい
(保育施設や健康増進の設置など)
- ④ このよさを生かしたまちづくりを進めてほしい
(小中学生が活躍できるスペースの確保など)

10 成果と課題

【資料12】単元終末の感想

生徒A | アンケートをつくったり、まちづくり協議会の方に意見を伝えたり、多面的に考えようと努力したり、それらのこの単元の学習は、もう小さな小さな地方自治であったような気がする。

生徒B | 私たちも含めて、地域の人も話し合いに参加し、共に解決策を考えたり、意見を伝えたりしなければいけない。「幸せ」でも、だれの幸せなのかで意見が変わってくるから、多くの立場から意見を伝えることで未来が変わる。

[仮説Ⅰ]について

手だて①では、今後大きな変化が予想される学区のアウトレット誘致とそれに関わるまちづくりを地域教材としたことで、生徒は課題を自分にかかわることと捉え追究意欲を高めていった。

手だて②では、まちづくりにかかわる人と出会ったことで、生徒はまちづくりにかかわる課題について多面的・多角的な視点で考えることができた。また、それぞれの立場の人の強い願いや中学生に向けた期待を知ったことで、生徒はまちづくりに参画していこうとする姿が見られた。

[仮説Ⅱ]について

手だて③では、子どもの思考の変容に合わせて単元構想を考えたことで、生徒は学習に見通しを持った。また社会的な見方・考え方を働かせてゲストティーチャーと出会う必然性を感じながら仲間とともに学習を進めた。それがよりよいまちづくりのためには住民を主体に多くの立場から意見を伝えていきたいと考える生徒の姿につながった。

手だて④では、【資料2】の教師の切り返しによって、生徒は単元を貫く学習課題を設定した。また、【資料9】T4の教師の出によって、生徒の思考は主権者としてどのようにまちづくりと関わっていくべきかという視点に切り替わった。その思考の転換が、意見書の提出という具体的な行動や、今後もまちづくり参画していこうとする生徒の姿につながった。

11 おわりに

本実践で生徒A・Bらが発足した「東中まちづくり協議会」を中心に作成された意見書は、実際のまちづくり協議会でも取り上げられ、アウトレット事業者にも提出された。また、生徒の要望に応じて中学生を交えた地域の意見交換会が開かれ、参加した生徒は意見を述べた。生徒Aの言葉にある「小さな小さな地方自治」であった本単元の学習は、生徒の実際の地方自治への参画へと広がりを見せた。この経験が生徒のさらなる社会参画に向けた姿勢につながることを期待する。今後も生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら社会参画への意欲を高める教材との出会いを求め、研究実践を進めていく。